

高森町議会だより

PARLIAMENTARY INFORMATION

絆

熊本地震から5年 創造的復興 最終章
3・7 阿蘇大橋がいよいよ開通しました



令和3年5月発行

No.81

3月定例会



3月定例会	2
町政を問う(一般質問)	6
常任委員会報告	8
第1回・第2回臨時会	10
町民の声	11

令和3年 第1回3月定例会

(令和3年3月12日開会)

令和3年度高森町一般会計予算

53億2,400万円

前年度対比 2億2,200万円増

国・県補助活用事業

エンタメ業界と連携したまちづくり事業

地域おこし協力隊制度を活用し、エンタメ業界の人材との政策間連携によるまちづくり事業を実施する。

- ①「096K熊本歌劇団」と連携したプロジェクト
- ②「漫画家」と連携したプロジェクト



事業費	補助額	一般財源
2,531万円	2,531万円	0円

その他事業

マイナンバーカード取得促進事業

マイナンバーカードの取得を促進するため、カード取得者に5千円を給付し社会保障の公平性の実現、町民の利便性向上等を図る。

事業費	臨時交付金	一般財源
3,418万円	3,418万円	0円

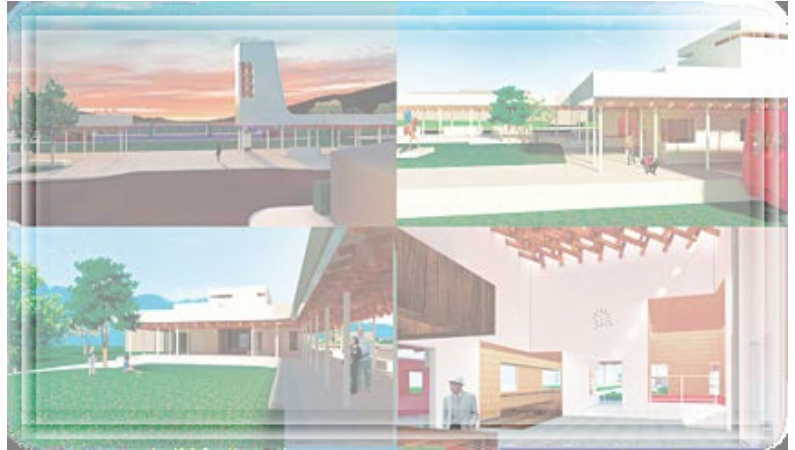


南阿蘇鉄道高森駅再開発工事(第1期)

高森駅をこれからの地域・まちづくりの最重要拠点施設として再整備するための付帯工事を行う。

【事業内容】

- 再開発整備エリア内の土木工事
- 雨水排水工事
- 記念碑の移設
- 屋外ステージ等の撤去



事業費	補助額	ふるさと応援寄付金	町の負担
7,500万円	3,000万円	4,500万円	0円

フードロス削減・乾燥野菜プロジェクト事業

町が有する遊休施設の活用も検討しながら、新規農産品開発や人材マッチング等を行い、農業の活性化を図る。

【事業内容】

以下の全事業に取り組む民間企業等に補助金を交付する。

- 乾燥野菜開発等事業
- 地域農業の活性化と新規農産品開発事業
- 町遊休施設の利活用事業
- 農業の労働力、人材マッチングに関する事業
- フードロス削減に関する事業

事業費	ふるさと応援寄付金	町の負担
1,500万円	1,500万円	0円



令和2年度一般会計補正予算(第15号)

7,926万6千円を減額

予算総額 74億584万8千円

主に各事業の最終調整による減額補正です。

令和3年3月定例会 主な質疑応答

議案第10号

高森町奥阿蘇特産品加工場の 指定管理者の指定について

質 「佐伯金也議員」

特産品加工場の半分は、草部地区で採れたものを加工して二次製品の商品開発をされていたが、現在はどのような状況になっているのか。精肉加工用の機械もある。これらを利用して有害鳥獣対応の加工場にすることは、可能ではないか。

答 「生活環境課長」

現在加工場で生産されている



高森町奥阿蘇特産品加工場

のは、お菓子のかりんとうだが、今後棚田で出来た米を使い、味噌作りをやりたい計画もある。

答 「農林政策課長」

特産品加工施設でジビエ料理の加工ができないかの質問に関して、有害鳥獣の処理は厳しい規制があるので、既存の施設では難しい。

議案第14号

高森町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例について

理由

「総務課長」

条例改正は、農業委員の年間報酬を引き上げる改正。阿蘇郡市内で高森町の報酬が一番低いことから、改正に至った。報酬見直しは平成31年2月に審議会で決定されたが、条例の改正をしてなかったため今回改正を提案した。

質 「佐伯金也議員」

同じ議会で予算措置をしたときに条例改正もすべきであった。この検証については総務常任委員会でも議論してもらいたい。

議案第15号

高森町手数料条例の全部改正について

質 「後藤徹議員」

全額、全部手数料の見直しだが、上げることの理由・運用コストに反映されるのか説明を求める。

答 「総務課長」

マイナンバーカードによるコンビニエンスストアでの交付に合わせる見直しをした。コンビニあるいは郵便局での交付になると、当然手数料の分を町が支払う。料金全体を均等にして幅広いサービスをするのが目的だ。



証明書自動交付機

議案第26号

令和3年度高森町一般会計 予算について

質 「芹口誓彰議員」

有害鳥獣対策の令和2年度分

経費は、3,273万9,000円。令和3年度の予算は、461万6,000円と大幅な減額だが、今後必要であれば補正という事で考えてよいのか。

答 「農林政策課長」

国の決定がある前に、着工できない事業である。県下全部の課題ではあるが、国が全国状況を見て増額上乘せの計画をしているので、決定後補正を上げる事となる。



箱ワナ

質 「佐伯金也議員」

町営学生寮の整備事業。これは高森町が町営の学生寮をつくるという事か。

答 「町長」

町全体で子育てをするのが基本の高森町。今回町営の寮をつくるがこれから中身の仕組みをつくるので、議会も参加いただきたい。

4/18 阿蘇砂防事務所 開所式がありました

【高森町の予定箇所】

阿蘇山（阿蘇カルデラ内）では、熊本地震とその後の降雨により崩壊等が多発し、平成30年度より直轄砂防事業に着手した。

令和2年度まで熊本復興事務所に事業を実施してきたが、大規模斜面崩壊対策が完了し、かつ今後、直轄砂防事業に係る工事が本格化することから、令和3年4月1日に新組織「阿蘇砂防事務所」が設置され、その開所式が阿蘇西小学校体育館において取り行われた。今後は豪雨や火山噴火による災害リスクを抱える阿蘇地域において砂防堰堤等を整備し、集落や国道・JR豊肥線及び南阿蘇鉄道等への土砂災害を防止、軽減に尽力される。



一般質問

町づくりと教育環境

文化都市・教育環境で人集め!!

町 長

教育で移住定住は賛同です



佐伯 金也 議員

3 人の 熱 弁

津留 智幸 議員

質 問 少子高齢化が進み本町の住居・商業地等のエリア分けが変化している。幼・小・中・高の一貫性と教育・住宅地・商業地の配置計画は立てられないか。企業誘致をして、働く場所があっても人口の流出がとまらない。教育環境で人口減少に歯止めをかけられないか。教育環境を高森町の商品として考えられないか。

方も一緒になった教育エリアのことも考えていたきたい。

町 長 高森東学園義務教育学校と同様に、高森中学校を基盤とした義務教育学校の設置を目指していくべきと考えている。その中で住民の住宅も含めて、移住定住をされる可能性がある生産人口世代の方が住むところに関しても同時に進めていくという考えには私も賛同する。

町 長 高森町の教育は学びの連続性・可能性の拡大という目標にICT教育等をやり実質が上がった。教育環境が商品化できる魅力があるのが高森町と捉えていただけではないか。

質 問 コロナ禍において通信環境の必要性が再認識されたが高森町内で高森光のインターネット通信料金が高いと伺っている。価格を下げる事は出来ないのか。

町 長 結論から申し上げると民間の決定なので喫緊における利用料の値下げの予定はないと回答をいただいている。引き続き料金については協議を継続していきたいと思う。

質 問 中学校を核として文化都市を形成して子育て世代を高森町が受け入れていこうというのであるならば、中川原団地の将来についても避けて通れない問題であると思う。公営住宅のあり

と関係があるのか。公営住宅のあり

健康ポイント事業

事業のカスタマイズ(改善)を展開しては

町 長

高森町独自の健康づくりをやっていきたい



質 問 全国的な少子高齢化社会を踏まえ、高森町でも町民が将来を通して健康で生き生きと暮らせる。そして気軽に楽しみながら継続的に健康づくりが出来る。環境づくりの一つとして「健康ポイント事業」が始まるが、事業の概要説明と一人でも多くの町民の方々に参加していただき、健康寿命を延伸していく工夫・方策は。

質 問 この事業が効果的に運用できるよう、各種スポーツ団体と連携、協力できないか。先進事例等を参考に魅力ある特典を提供するなど、事業のカスタマイズを行い、より有効的な健康づくりの環境整備を進めていくべきではないか。

教育委員会 事務局長 高スポの各教室への参加や各団体の主催するスポーツイベント等への参加。町民体育館・町民グラウンドの利用についてもポイントを付与することも可能と考える。

町 長 より多くのデータを集積して、それに基づいた展開を法人化した高スポに事業の委託も可能になるので、先進地の事例を参考にしながら、高森町独自の健康づくり、健康ポイント制度を行っていきたい。

健康推進課 課長 熊本連携中核都市圏事業として、加盟する14市町村が参加して実施する。個人のスマートフォン専用アプリを利用して、各種検診の受診やウォーキング等の健康づくり活動を計測する。ポイント化した後に豪華賞品の抽選に応募できる特典を付けることにより、健康づくり活動の習慣化を図る。健康推進課の窓口でスマートフォン取り扱いについて説明する。

町政を問う

新型コロナウイルスワクチン接種

接種にあたり現在の状況、及びこれからの動きは

町 長 住民福祉課を中心に課を横断した体制で取り組む

質 問 現在、高森町の新型コロナウイルスワクチン

接種状況はどの様になっているか。

福祉課長 高森町にワクチンが届くのが4月26

日の週に約500名分が届く予定。その先の納入については未定である。接種順序としては高齢者施設の入居者と従事者、障がい者施設の入居者、従事者を第一にし、続いて65歳以上の方、その後に16歳から64歳までの方の順で予定している。4月の中旬より接種の案内及び接種券を発送予定としている。接種会場は集団接種を主に個別接種の併用を予定しており、本町に相応しい接種体制の構築に向けて準備をしている。詳細が決まり次第、TPCを通じ詳しく説明していく。

質 問 住民の皆さまへ安心、安全な接種をして頂くため、どの様に

考えどの様に伝えていくか。

町 長 接種については医療機関の方々と協議を重ねることが、安心

安全な接種体制の構築に繋がっていくと考える。住民の皆さまが接種を受けやすいように、循環パスの計画も持っている。行政としては危機管理と捉え、庁舎内でも令和2年2月より新型コロナウイルス管理職会議を行っており、議事録のデータ化による情報共有をしている。コロナ収束後のことも含め、しっかりと行政が取り組んで行くことをお伝えしたい。



令和3年度阿蘇広域行政事務組合負担金予定額(高森町分)

一般会計		単位：円
項 目	金 額	
一 般 管 理 費	12,847,000	
介護保険対策費	3,438,000	
障害支援対策費	740,000	
火 葬 業 務 費	893,000	
南部火葬施設費	4,291,000	
環 境 総 務 費	1,974,000	
清 掃 施 設 費	80,831,000	
最終処分場費	5,604,000	
南部清掃施設費	21,217,000	
し尿処理施設費	43,485,000	
消 防 費	125,290,000	
一般 計	300,610,000	

特別会計		単位：円
項 目	金 額	
湯 の 里 荘 費	20,959,000	
特別 計	20,959,000	



※負担金は、人口割・利用頻度等で算出されます。
※ゴミをなるべく減らす、安全に生活することで負担金を減らすことが出来ます！

合 計	321,569,000
-----	-------------

高森町選出組合議員

本田 生一	副議長
佐伯 金也	議会運営委員長
津留 智幸	



後藤 巖 議員

総務文教常任委員会報告

☆閉会中の継続調査

2月26日委員会を開催し、政策推進課から南阿蘇鉄道新駅建設の整備案について事業期間、湧水トンネルへのアクセス性、鉄道の安全性、収益性等の説明を受けた。審議した結果、さらに議会全員協議会を開催し審議を尽くす必要があると決した。

令和2年度事業の進捗状況については、新型コロナウイルスの影響によりイベント関係は軒並み中止となった一方、新型コロナウイルス対策として休業事業所補助金事業、事業所清掃事業、デリバリー支援事業、テイクアウト支援事業に取り組み、成果が上がったことや老朽危険空き家解体撤去ボランティア活動で町内64棟解体撤去が完了したこと。ふるさと納税の寄付額が1月末で8億3千万円を超えた等の報告を受けた。

総務課から、令和3年度の予算編成について、草村町政3期目の3年目となることからこれまでの施策の検証を行い、これからの施策の方向性を明確化し中長期

的に安定した財政運営を行うため事業の必要性、緊急性を精査した予算編成とした旨説明を受けるとともに、財政状況についても詳しく説明を受けた。

☆会期中の委員会審議

委員会に付託された「高森町報酬及び費用弁償条例の一部改正」「令和2年度高森町一般会計補正予算」「令和2年度高森町鉄道経営対策事業基金会計補正予算」「令和3年度高森町一般会計予算」「令和3年度高森町鉄道経営対策事業基金会計予算」については、担当者から詳細に説明を受けて審議した結果、付託された議案すべて可とした。なお令和3年度一般会計予算については、公共交通対策費で南阿蘇鉄道新駅整備実設計業務委託料23,243千円は、全員協議会で観光客の誘客や利用者の増加に伴う費用対効果が見込めないこと、線路勾配や線形等運行の安全性が困難との意見が出されたことを踏まえ、慎重に審議した結果これらの課題

が解消されるまで実施設計業務委託料については実施されないことの附帯決議もつて可とした。

【主な質疑事項】

◎令和2年度高森町一般会計補正予算

質 乗り合いタクシーは乗り場に行くまで不便との声もある。乗り合いタクシーの利用頻度及び現状について伺う。

答 月に5名程度利用。町の助成は月約1から2万円程度である。

◎令和3年度高森町一般会計予算

質 天草・高森横軸連携事業で自治体の特産品等を活用したコラボ商品開発を行ってはどうか。

答 両地域の特産品を活用した商品開発については現在も検討している。引き続き連携を取りながら進めて行きたい。

質 旧高森高校寮の買収価格の算定根拠、及び敷地、建物の面積、建物の構造について伺う。

答 買収価格は、土地については固定資産評価額、建物は概算評価額に基づいたものである。面積は

土地が1,800㎡、建物は800㎡、鉄筋コンクリート2階建て構造である。



旧高森高校学生寮

質 高森中央学園構想について伺う。

答 昭和22年、6・3制の義務教育制度が始まったが、小学校6年と中学校1年の格差解消が義務教育学校設立に繋がっており現在の大きな流れとなっている。本町では、町長のマニフェストと新教育プランに沿っていち早く小中一貫教育を実施してきた。教育委員会を開催した後、高森町総合教育会議で協議し、高森中央学園義務教育学校設立を目指すこととしている。

産業厚生常任委員会報告

☆閉会中の継続調査

1月21日、2月18日、常任委員会を開催し、所管各課と質疑応答を行った。主なものとして、新型コロナウイルススワクチン接種体制については、接種計画を立てる難しさや、ワクチンがいつ、どれだけ入ってくるか分からない状況で、協議を重ねながら体制構築を進めていくと報告を受けた。

委員より、申し込み、受付、接種、経過措置までシミュレートして、必要人員や会場などを確定していくように意見が出された。高森町管内道路網再編計画の検討書類、検討手順の説明、評価対象路線予定の報告があった。集落の状況や家屋の有無、通行可否を始めとし、各施設へのアクセス、将来へのネットワークなどを加味して見直し候補路線や区間を抽出、また見直しによる維持管理コストの軽減も同時に出された。

決定後は地域への説明をしっかりと行うように申し入れた。

地域課題解決のための集落支援員制度活用事業の支援員の募

集状況、現状の報告があり、まだ地域への理解が深まっていない点など見受けられるので、会議などで更なる説明を行うように要望した。



町道廃止検討中の道路

☆会期中の委員会審議

(主なものを掲載)

委員会に付託された「令和2年度高森町一般会計補正予算」「令和3年度高森町一般会計予算」条例改正2件、令和2年度各特別会計補正予算5件、令和3年度各特別会計予算5件について、担当者より説明を受け審議した結果すべての議案を可とした。

◎高森町介護保険条例の一部改正について

年度の文言改正であり可とした。

◎高森町国民健康保険条例について

新型インフルエンザ等対策特別措置法の改正に伴う、新型コロナウイルス感染症の定義文言の改正であり可とした。

【主な質疑応答】

質 健康ポイント事業（熊本健康アプリ）について伺う。

答 専用アプリのダウンロード後、ウォーキングや健康診断や健康イベントに参加しポイントを得て、そのポイントで抽選に応募して賞品を獲得する。

委員からは献血や特定健診などもポイントに加え、医療費の抑制を目的に、住民の健康活動の習慣化や意識を高めていくように意見が出された。



質 町民農園事業について伺う。

答 遊休農地を有効活用するため開設。農園が町外に住まれる方々や、児童生徒たちとの交流の場として活用していく。高齢者の生きがいづくり、健康促進の場としての目的もある。場所は高森湧水トンネル公園西側駐車場の傍としている。委員からは今までにない取り組みであり大いに活用されることを望むとともに、TPCなどを通じた広報活動にも力を入れるよう要望した。



町民農園予定地

令和3年 第1回臨時会

(令和3年1月14日開会)

一般会計補正予算(第12号)

4億9,303万円を追加

主にふるさと応援寄附金の増額による補正です。

令和3年 第2回臨時会

(令和3年2月17日開会)

一般会計補正予算専決(第13号)

4,043万1千円を追加

高森町事業所継続支援補助金

外出自粛等により影響を受けている事業所支援のため「高森町事業所継続支援補助金」を創設する。

※申請期間は令和3年2月8日～3月12日をもって終了しております。

事業費	補助額	一般財源
3,000万円	0円	3,000万円

一般会計補正予算(第14号)

6,686万円を追加

新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業

新型コロナウイルスワクチンが供給可能となった際、速やかに接種を開始できるように体制整備を図る。

事業費	補助額	一般財源
2,088万円	2,088万円	0円

町民の声



平井 敏郎さん
(高森・旭通)

私の出身地は、大分県豊後大野市三重町です。私が子どもの頃、父親が高森町駅付近に仕事場の出張所を作り、パルプや林業の仕事をしてメグロの単車で高森町に出かけて商売をしていました。父親が亡くなった後、家業の林業機械修理販売を手伝っていましたが、高森町に縁があり住むことになりこれも不思議な縁だなと感じました。

義理の父である平井機械店のお父さんは、大分県日田出身で高森町に来て索道に関わる建設の仕事をし、林業機械の修理販売もしていました。高森町に来て25年になりますが、子どものPTA役職を幼稚園から小中学校まで、微力ながら教育現場のお手伝いをして多くの人たちと関わりを持ち、また養心流空手道の池田師範に出会い練習を重ね黒帯になり20年になります。子どもや大人の指導をしながら今も続けています。

高森町に住んで25年の間に、たくさんの気の合う友人に出会い楽しく交流を続けています。

また、草村町長初め、議会議員や役場職員の方々が頑張っている中で、教育関係には大変力を入れられているので高森町は益々発展していくと思います。

努力に勝るものなしと心に思いこれからも私なりに頑張っていきます。



衛藤 千佳さん
(高森・旭通)

これまで2年間、事務局職員として議会広報委員さんとともに議会広報「絆」の発行にあたってきました。

議会広報「絆」は、定例会終了後、議会で審議した内容やその結果、各委員会での活動などをお知らせするためのものです。月に4回程委員会を開催し、委員全員で話し合いながら掲載する内容を決め、発行まで仕上げていきます。

その中で特に苦労している点は、読み手の皆さんにいかにわかりやすく伝えるかということです。聞きなじみのない言葉の表現の仕方、写真、イラストなどのレイアウトを考える上で他町村の広報誌を拝見するなどして参考にさせていただいています。

また、県の広報コンクールに参加し、本町の広報誌について講評いただいた意見をもとに、より分かりやすく見やすい誌面となるよう、工夫をしているところです。

その他、表紙の写真についても、いくつか候補を出して、季節感溢れるものや旬な話題が一目見ただけで伝わるよう、時間をかけて選定しております。

最後に、議会広報「絆」をぜひ多くの皆さんに見ていただきたいと思います。その上で町で取り組んでいる事業や議会で行っていることに少しでも関心を持っていただけたら幸いです。

「熊本の才能・宝を活かす手法」に 堀江社長・草村町長との パネルディスカッションが実現



去る、3月15日（月）ホテル日航熊本にて（株）日本政策投資銀行主催の講演会「コンテンツが動かす地域の未来 **熊本の才能・宝を活かす手法**」が開催され、コアミックス堀江社長が基調講演。その後、草村町長が、パネルディスカッションに登壇し、「草村ビジョン」を織り交ぜながら熱のこもった討論を展開された。

この講演会は、熊本の政財界に対し企業や業種の域を超え、熊本の未来や地方創生に向け20年に

わたり毎年開催されている。

今回は、コアミックスと本町が連携する取組、今後の展望を交えて県内の政財界のリーダーに対し独自の視点から講演をされた。

各界の著名人・財界人が新型コロナウイルス感染症予防の警戒中にも関わらず、多数参加されたことから注目の高さをうかがい知ることができた。

高森町議会からは、後藤議長・牛嶋副議長・後藤巖議員が出席した。

編集後記

五月晴れの空に鯉のぼりが悠々と泳ぎ山の新緑が眩しく風薫る季節になりました。

新入生たちの声も高らかに響き元気がでる今日この頃です。

コロナ禍ではありますが、日々の予防を心がけることで収束へ向かうものと思っております。皆で丸となってこの状況を乗り越えましょう。

季節の変わり目です。どうぞご自愛ください。

後藤 巖

議会広報特別委員会

議 長 後藤 三治（発行責任者）

委 員 長 牛嶋津世志 委 員 津留 智幸

副委員長 後藤 清治 委 員 後藤 巖



森林資源保護・自然保護のため、
本誌は再生紙を使用しています。